音楽科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第５校時　13:35～14:20
学校名　小学校
対　象　第２学年
会　場　音楽室
授業者　〇〇　〇〇

第１期班テーマ：ねらいを明確にした授業づくり

１　題材名　強弱の変化を感じ取ろう

２　題材の目標

(1)「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。
(2)「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く。
(3)「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

３　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。	思①　「トレアドール(闘牛士)」の強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 思②　「トレアドール(闘牛士)」の強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態　「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

４　指導観

(1) 題材観

本題材は、強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりに気付いたり、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いたりする鑑賞の学習である。強弱の変化に着目しながら曲想を感じ取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くことをねらいとしている。強弱を捉えやすい楽器に着目して聴くことで、その変化をより聴き取ることができる。また、児童が感じたことを自分の言葉で表せるよう「曲想を表す言葉の例」を用いて、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるようにする。本題材を通して、聴き取った強弱の変化と感じ取った曲想との関わりに気付き、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲全体を味わって聴く力を育んでいく。

本題材は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第２章第６節音楽

〔第１学年及び第２学年〕２内容　Ｂ鑑賞
(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
イ　曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。

を受けて設定した。

〔共通事項〕との関連を図るため、「第３　指導計画の作成と内容の取り扱い　２(8)」に示された「音楽を形づくっている要素」のうち、「ア　音楽を特徴付けている要素」の中から強弱を扱う。

(2) 児童観

第２学年の児童は今年度より音楽の授業を担当している。明るく元気な児童が多く、どの学習も楽しみながら意欲的に取り組んでいる。児童は、第２学年になって初めての鑑賞の学習である。本題材に関わる学習として、第１学年の「おどる　こねこ」（ルロイ・アンダソン　作曲）では、子猫の様子を思い浮かべながら聴き、25 人中 12 人の児童が感じ取った曲想を言葉で表すことができた。「シンコペーテッド　クロック」（ルロイ・アンダソン　作曲）では、25 人中 20 人の児童が様々な音色が生み出すよさや面白さを味わいながら、曲想との関わりに気付くことができた。「ラデツキー行進曲」（ヨハン・シュトラウス　作曲）では、音楽に合わせて身体表現をすることで、25 人中 17 人の児童が強弱の変化を感じ取ることができた。本学年の児童は、身体表現を通すことで音楽の構造を聴き取ることができる。本題材では、身体表現を通して強弱の変化が生み出すよさや面白さを感じ取る中で、曲想との関わりに気付き、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く力を育んでほしいと考え、本題材を設定した。

一方で、感じ取った曲想を言語化することに課題のある児童が約半数いる。本題材では、「激しい、穏やか」などの音楽の様子を表す形容詞を表にした「曲想を表す言葉の例」を活用し、児童が感じ取ったことを言語化できるようにする。

(3) 教材観

ア　鑑賞教材　「カルメン」組曲第１番より第６曲「トレアドール（闘牛士）」ビゼー　作曲
シャルル・ミュンシュ　指揮／ニュー・フィルハーモニア管弦楽団　演奏（２分 25 秒）

本楽曲は、ビゼー作曲の歌劇「カルメン」をフリッツ・ホフマンが管弦楽に編曲した二つの組曲の中の１曲である。Ａ(a2+b+c+a)+Ｂ+Ａ(a)+Coda の二部形式からなり、明るく軽快なＡの部分と穏やかでなめらかなＢの曲想の違いを感じやすく、曲全体をよさや面白さを味わえる楽曲である。また、Ａの部分は、シンバルが ff で奏でる(a)と p で奏でる(b) の強弱の変化が聴

き取りやすく、シンバルが演奏しない(c)やＢとの違いも聴き取りやすい。本楽曲を通して、強弱の変化と曲想との関わりに気付き、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲全体を味わって聴く力を育んでいく。

５　年間指導計画における位置付け

本題材は、強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりに気付いたり、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いたりすることをねらいとした学習である。関連する題材は、下記の表のとおりである。

第１学年　第２学期	第２学年　第１学期	第２学年　第２学期
○　みんなで合わせて楽しもう（２時間） 〔主な教材〕 「ラデツキー行進曲」(ヨハン・シュトラウス　作曲)	○　強弱の変化を感じ取ろう（本題材・２時間） 〔主な教材〕 「カルメン」組曲第１番より第６曲「トレアドール（闘牛士）」（ビゼー　作曲／フリッツ・ホフマン　編曲）	○　くりかえしをみつけよう（２時間） 〔主な教材〕 「トルコ行進曲」（ベートーベン　作曲）
音楽に合わせて身体表現をしながら強弱の変化に気付く。	強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりに気付いたり、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いたりする。	強弱の変化と反復を基に曲想と音楽の構造との関わりに気付いたり、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いたりする。

６　題材の指導計画と評価計画（全２時間）

	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	知・技	思	態
	◎　「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。			
第１時（本時）	○　シンバルの音色を聴き取る。 ・　強弱を変えたシンバルの音を聴く中で、奏法を知り、音の出る仕組みを知る。 ・　Ａ(a)の部分を聴きながら、シンバルが演奏されている部分に気付く。 ○　シンバルの音色に着目して強弱の変化に気付き、そのよさや面白さ、美しさに気付く。 ・　Ａ(a)からＡ(b)を通して聴く中で、シンバル強弱の変化を感じ取る。 ・　Ａ(c)はシンバルが演奏しないことに気付く。 ・　Ａ(a)とＡ(b) 、Ａ(c)を比較して聴く中で、シンバルの強弱が生み出すよさや面白さ、美しさを考える。			

	○　曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。 ・　シンバルの強弱の違いに着目しながら、A(a)からA(c)の曲想を感じ取り、その関わりを考える。	① 知 発言・記述		
第2時	◎「トレアドール（闘牛士）」の曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く。			
	○　曲の構成に気付く。 ・　曲全体を通して聴く中で、曲想の違いを感じ取り、曲の構成に気付く。 ○　曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く。 ・　Bの曲想を感じ取り、感じたことと聴き取ったことの関わりを考える。 ・　曲全体の曲想の違いを比べる中で、それぞれのよさや面白さ、美しさを見いだし、曲全体を味わって聴く。		② 発言・記述	① 行動観察・記述

7　指導に当たって

◆第１期班テーマ：ねらいを明確にした授業づくり

ねらいを明確にした授業を行うには、題材の目標と評価が一貫し、それを達成するための手だてが講じられていることが重要である。本題材のねらいを達成するためには、「強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりに気付くこと」が重要である。そこで、本題材は、以下の視点に留意して授業を展開する。

(1)　「ねらいを達成させるため」の視点から

強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりに気付くためには、強弱の変化が分かりやすい教材を使用することが重要である。そして、強弱の変化に着目して聴いたり、強弱が変わる場面に分けて聴いたりすることで、その変化を聴き取ることができる。また、曲想を表す語彙が少ない児童が感じ取ったことを言語化できるように、「曲想を表す言葉の例」を提示する。この「曲想を表す言葉の例」は、今後の学習においても継続的に使用し、児童の語彙力を高めていく。

(2)　「主体的・対話的で深い学び」の視点から

感受の場面では、①個人で考える時間、②ペアで意見交流する時間、③学級全体で共有する時間を設ける。まず、児童が感受したことを言語化する時間を十分に取る。「曲想を表す言葉の例」を用いて様々な言葉に触れる中で、感じ取ったことを言語化できるようにする。そして、ペアで交流する時間は、自分とは違う意見に目を向けるようにし、様々な感じ方があることに気付かせ、そのよさを話し合わせる。学級全体で共有する場面では、自分の意見を発表したり、友達の意見でよいと思った所を発表したりする中で、感じ方の多様性に気付かせるとともに、様々な見方・考え方があることに気付かせ、自分の考えを更に深められるようにする。

８　本時（全２時間中の第１時）

(1) 本時の目標

「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	・指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 5 分	・　本時のめあてと学習の流れを確認する。 シンバルの音に注目して、音楽の様子をかんじとろう！	・　耳を澄ませて、音を出さずに聴くなどの鑑賞の学習方法を伝える。	
展開 35 分	○　シンバルの音色を聴き取る。 ・　強弱を変えたシンバルの音を聴く中で、奏法を知り、音の出る仕組みを知る。 ・　A(a)の部分を聴きながら、シンバルが演奏されている部分に気付く。 ○　シンバルの音色に着目して強弱の変化に気付き、そのよさや面白さ、美しさに気付く。 ・　A(a)からA(b)を通して聴く中で、シンバル強弱の変化を感じ取る。 ・　A(c)はシンバルが演奏しないことに気付く。 ・　A(a)とA(b)、A(c)を比較して聴く中で、シンバルの強弱が生み出すよさや面白さ、美しさを考える。	・　大きい音と小さい音をそれぞれ１回ずつ打ち、演奏の仕方の違いで強弱が変わることに気付かせる。 ・　シンバルが鳴っているところで手を挙げたり、楽器を弾く真似をしたりすることで、シンバルのリズムをつかめるようにする。 ・　小さい音でシンバルが演奏していることに気付いた児童を取り上げ、シンバルの強弱が変化したことに気付けるようにする。 ・　A(a)とA(b)、A(c)の中で、自分が一番好きな部分を考えさせる中で、それぞれの特徴に気付かせ、そのよさや面白さ、美しさに気付けるようにする。	思①　「トレアドール（闘牛士）」の強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。（発言内容、ワークシート）

	○　曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。 ・　シンバルの強弱の違いに着目しながら、A(a)からA(c)の曲想を感じ取る。 ・　聴き取ったことと感じ取ったことの関わりを考える。	・　A(a)とA(b)、A(c)の部分に分けて考えられるようにする。 ・　「曲想を表す言葉の例」を用いて、感じ取ったことを言語化できるようにする。 ・　感じ取ったことをペアで話し合ったり、学級全体で共有したりする中で、自分の考えが更に深められるようにする。 ・　強弱の変化と曲想を場面に分けて比較させることで、聴き取ったことを感じ取ったこととの関わりに気付けるようにする。	知　「トレアドール(闘牛士)」の強弱の変化を基に曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。（ワークシート、発言内容）
まとめ5分	○　本時の学習を振り返る。 ・　本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	・　シンバルの強弱の変化が曲想の違いを生み出していることを確認する。 ・　曲には続きがあることを伝え、シンバルの有無や曲想を想像させる。	

(3) 板書計画（例）

シンバルの音にちゅう目して、音楽のようすをかんじとろう！

	あ(２回)	い	う	あ
シンバル (大・小)				
音楽のようす (きょくそう)				

曲想を表す言葉の例

(4) 授業観察の視点

ア　「カルメン」組曲第１番より第６曲「トレアドール（闘牛士）」は、強弱の変化と曲想との関わりに気付きやすい教材であったか。

イ　「曲想を表す言葉の例」は、児童が感じ取ったことを言語化するのに有効であったか。

ウ　感受の場面で、①個人で考える時間、②ペアで意見交流する時間、③学級全体で共有する時間を取ることで「主体的・対話的で深い学び」は実現されていたか。